

# みどりのゆび

諏訪中央病院グリーンボランティア通信 No.119号

2021年7月7日発行

## お守りの木の下で

ラトビアでは、オーク、リンデン、りんごの3本が「代々の家族を守る木」と言われてきました。この春、東側の庭に小りんごの苗木を植えました。すでにあるオーク、リンデンと共に、図らずもラトビアの知恵が揃いました。愛らしい花と赤い実は、絵本の1ページのように。庭を巡るどなたもが、幸せな気持ちになること請け合いです。

[萩尾]



## 春のバザーを経験して

5月26日、春のちいさなグリーンバザーを開催しました。コロナ感染対策のため病院の協力によりハーブガーデンにテントを張っていただきました。花束、花苗、手作り品が並び、たくさんの方々に来ていただき、盛況となりました。

☆初めてのバザー委員でしたが、お花の香りに包まれて皆さんが輝いていたのが印象的でした。庭のクリスマスローズのドライが、シックな色になって感激、また皆さんが持ち寄った花々、病院の庭の花々で作ったブーケも素敵でしたね！お天気に恵まれてお客様にも喜ばれていたと思います。コロナ禍でも「気持ちを継いでいく」ことが大切だと感じました。

[小野里]

☆初めて参加した春のバザーは、お天気にも恵まれ、和気あいあいと充実した楽しい行事でした。手作りの品、持ち寄りの苗、ドライフラワー、前日から皆で作成した花束など、すべてに出品者の善意と愛が結集されていました。ここで得た収益が運営資金になっていく。独立自尊のすばらしい会だと、改めて感服いたしました。

[田村]

☆「春のバザー、楽しみにしていたんですよ！」当日、数人のお客様から声をかけられました。コロナ下の小さなバザーであっても、来られた方を笑顔にすることができるグリーンボランティアの活動のすばらしさを実感しました。私は、春のバザーは初めてで、おぼつかないことも多かったのですが、皆さんのアイデアと熱意に刺激を受け楽しく関わることができました。お疲れさまでした！

[藤平]



## 総務課長が交代しました

本年4月から矢崎前課長より総務課長の職を引き継いだ永田良一と申します。

思い起こせば、平成10年に病院南棟が建設され中庭ができてから、見る見るうちにハーブガーデンが整備されてすばらしいものになってきたのを鮮明に記憶しています。今や現在のハーブガーデンは病院の歴史の一部になっているのだと感じています。今後ともグリーンボランティアの皆様のお力添えを頂きますようお願い申し上げます。



## 新しいメンバーです

☆茅野市に移住して10ヶ月になります。自然豊かな所で生活し、今まで植物に関心がなかったのですが、興味が芽生え、参加させていただきます。よろしくお願ひします。 [加藤久仁幸]

☆八ヶ岳に憧れて、昨年10月に名古屋より移住してきました。お庭仕事大好きです。ボランティア活動もしてみたかったので、お役に立てれば幸いです。

[加藤典子]

## コラム No.14

## キバナカタクリ（黄花片栗）

この春、山野草エリアに黄色いカタクリの花が4株ほど咲きました。植えた記憶もないのに、突然の出現に驚きましたが、直ぐに「黄色いカタクリを植えたのだけれど、盗掘されてしまった」と菰田さんたちから聞いていたのを思い出しました。キバナカタクリは北米産の黄色い花が咲く園芸種として日本に入ってきたようです。



カタクリ属は、全世界に20数種が知られていますが、日本の在来種としては桃色の花のカタクリ *Erythronium japonicum* (東アジアに分布) 一種のみです。そのカタクリについての研究によると、カタクリは7～8年は一枚葉の時期があり、その後2枚葉となって開花し、その後は4～5年開花を続けるということです。ということは、以前咲いていたキバナカタクリの種子がこぼれて、長い年月を経て今年開花したということでしょうか？周囲を見渡すと、一枚葉のカタクリの葉が何株も見えます。来年が楽しみです。



カタクリの地下の鱗茎からはカタクリ粉が取れますが、収穫量が少ないため、今はもっぱらジャガイモのデンプンが利用されています。 [入江]